

令和3年度

全国学力・学習状況調査の課題を踏まえた学習指導等の
改善・充実のポイント

「学びに向かう力」の育成に向けた授業づくり

～家庭や地域と連携した生活習慣や学習習慣の確立に向けて～



兵庫県マスコット はばタン

兵 庫 県 教 育 委 員 会

指導資料ダウンロード



兵庫県教育委員会
義務教育課 HP



この指導資料はここから
ダウンロードできます！

日々の授業や教材研究、各学校での研修会
や研究授業、そして、各市町組合教育委員会
での研修会の資料としてもご活用ください。



はじめに

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること、そして、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的に平成19年度から実施されています。

本県では、学力向上実践推進委員会を中心に、全国学力・学習状況調査結果の分析を行い、指導方法の工夫・改善策について毎年検討しており、本指導資料は、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学習指導等の改善・充実のポイントについて掲載しています。

I・II章では、全国学力・学習状況調査における本県の調査結果の概要及び各教科の調査結果に見られる課題と指導のポイントについて掲載しています。本指導資料で取り上げた問題や各学校での分析で課題の見られた問題について、調査該当学年だけでなく、学校全体で分析を行い、課題解消に向けた系統的な授業改善を進めることが、児童生徒の学力向上につながります。

III章では、昨年度に引き続き「学びに向かう力」の育成をテーマに、具体的な授業改善のポイントを4つの場面で示しています。また、指導方法については、4つの授業改善のポイントに関連した指導方法をご自身の指導方法と比べながら振り返り、さらにより良くするためにはどのようなことに気を付ければ良いかを考えることができる構成にしています。加えて、「学びに向かう力」を育むための学級づくりについても掲載しています。

今年度の調査結果からは、家で自分で計画を立てて勉強している児童生徒の割合が増えている半面、一日あたり1時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合が極めて増加していることが明らかになりました。加えて、就寝、起床、朝食の摂取状況など基本的な生活習慣と学力との相関も見られており、学力向上のためには、学校と家庭や地域との連携が必要不可欠となっています。そこで、IV章では、どのように家庭や地域と連携して、生活習慣や学習習慣を確立すればよいのかを、具体的な学校の実践事例や市町の取組を交えながら示しています。ぜひ、それぞれの事例のエッセンスを各学校の実態に合わせて、取り入れていただければと思います。

各学校におかれましては、本指導資料を教育活動の振り返りや校内研修、授業の改善に役立てていただくとともに、「学びに向かう力」の育成を図り、さらなる学力向上に向けた取組の充実のためにご活用いただくことを期待します。

令和4年1月

兵庫県教育委員会

目 次

I	調査の概要		1
II	各教科の調査結果に見られる課題と指導のポイント		2
1	国語		
(1)	小学校国語		
(2)	中学校国語		
2	算数・数学		
(1)	小学校算数		
(2)	中学校数学		
III	「学びに向かう力」を育成する授業改善及び指導体制の充実に向けて		1 2
1	「学びに向かう力」について		
2	「学びに向かう力」を育成するための授業改善のポイント		
(1)	学びの見通しをもつ場面での工夫		
(2)	考えを広げ深める場面での工夫		
(3)	学びを振り返り、次の学びにつなげる場面での工夫		
(4)	学習を家庭や地域とつなげる場面での工夫		
(5)	「学びに向かう力」の育成に着目した授業実践		2 0
■	国 語		
ア	小学校：国語		
イ	中学校：国語		
■	算数・数学		
ウ	小学校：算数		
エ	中学校：数学		
(6)	「学びに向かう力」を育むための学級づくりについて		2 8
IV	家庭や地域との連携に向けて		3 0
1	家庭や地域と連携した生活習慣や学習習慣の確立のために		
2	家庭や地域と連携した学校の取組事例		
3	家庭との連携を行っている市の取組事例		
4	地域との連携を行っている市の取組事例		

裏表紙 学びを支え高め合う「新はばタン・モデル」

本資料テーマに関連する資質・能力の三つの柱と「学びに向かう力・人間性等」について



資質・能力の三つの柱のうち、「学びに向かう力・人間性等」は児童生徒が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる資質・能力であり、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素です。

小(中)学校学習指導要領(平成 29 年告示)第 1 章の第 4 の 1 の(1) 抜粋

調査の概要

1 調査目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ※なお、この調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

2 調査内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

3 実施日

令和3年5月27日（木）

4 実施状況（公立小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校）

小学校6年生 742校 中学校3年生 344校

5 教科に関する調査結果（平均正答率の状況）

学年	教科	本県（公立）	全国（公立）
小学校 6年生	国語	64	65
	算数	71	70
中学校 3年生	国語	64	65
	数学	58	57

11

■小学校国語 p. 4～p. 5 ■中学校国語 p. 6～p. 7
 ■小学校算数 p. 8～p. 9 ■中学校数学 p. 10～p. 11

Q

A

Plan 2 解答類型を基に誤答の傾向を把握



①誤答の類型に着目
②高い割合の誤答の類型を確認・分析
➤国や県と比較し、学校独自の課題を洗い出す

■「国立教育政策研究所（以下国研）の報告書」を活用し、正誤だけでなく、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまづいているのか）等に着目した学習指導の改善・充実を図る具体的な手立てを検討する（※国や県と比較した分析を行う）

授業や指導
計画等の改善

評価・検証した結果に基づき、次年度へ向けて、授業改善の手立てを再検討する
※校内研修等へも生かすようにする

Action

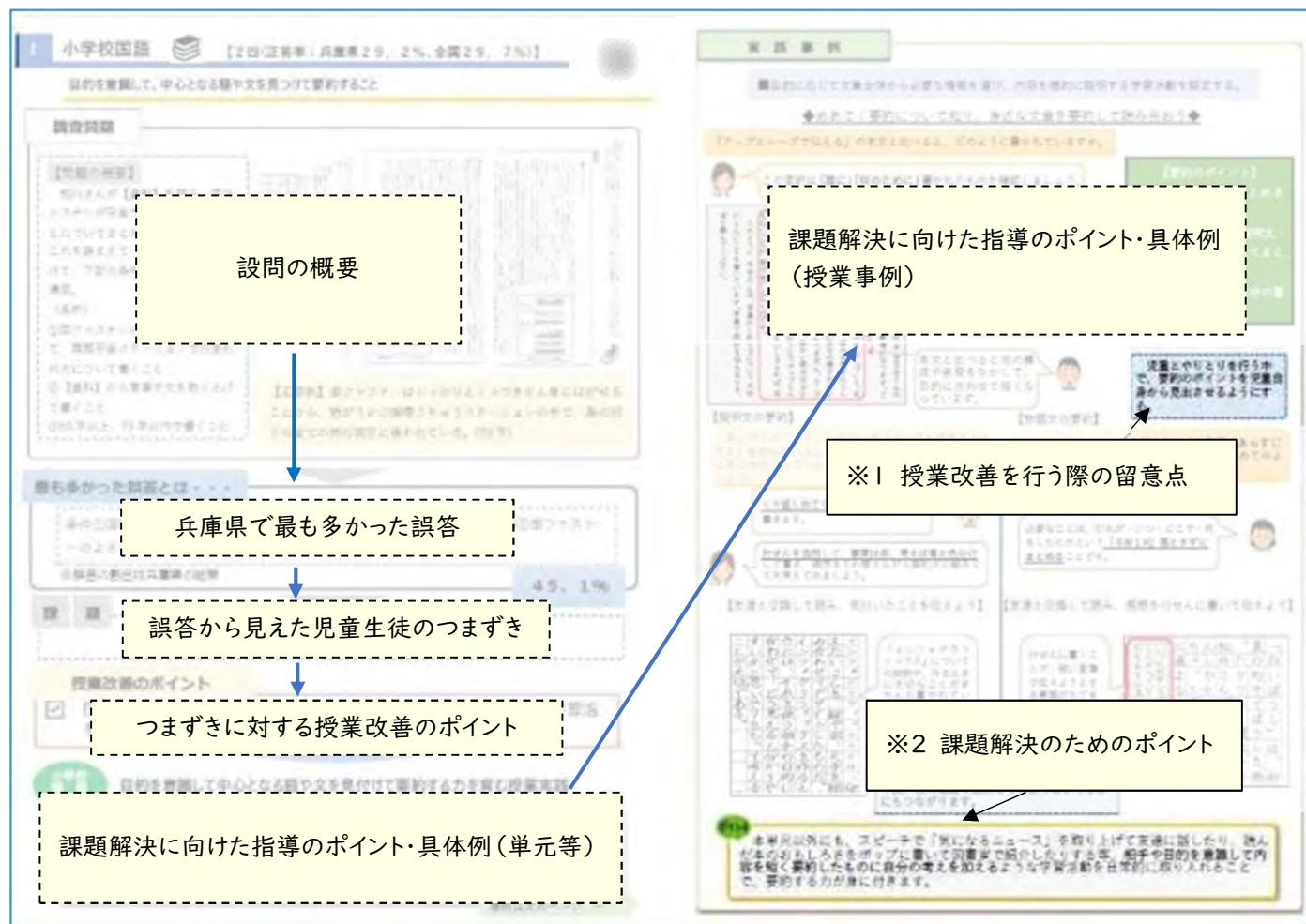


分析から見られる課題・指導のポイント【P4～の資料の構成】

特に正答率の低かった設問や全国に比べて差の大きかった設問について、解答類型を基に課題の分析を行うとともに、それにつながる基礎的な内容についても今年度や過去の調査問題をもとに分析を行い、その改善に向けた指導のポイントを示しています。

左のページには、特に課題の見られた問題の概要や誤答の傾向、そして、兵庫県で一番多かった誤答から導き出された課題とそれに対応した授業改善のポイントを示しています。

左側のページの下段から右側のページにかけて、その授業改善のポイントを授業展開例で示しています。



※1 全国学力・学習状況調査の結果で課題の見られた児童生徒のつまずきに対して、授業改善の工夫を行う際の留意点です。ただその手立てを行うのではなく、その手立ての目的や効果、その手立てにつながる指導等を記載しています。

※2 課題解決のポイントを示しています。この授業だけでなく、他の単元等にも活用できるように示し方をしているので、学年や単元が違っている場合でも参考にして、授業改善に取り組んでいただければと思います。

全国学力・学習状況調査を実施した学年だけの課題と捉えずに、その学校全体の課題であるという意識をもって、分析や授業改善に取り組むことが大切です。



■ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約できるかどうかをみる問題

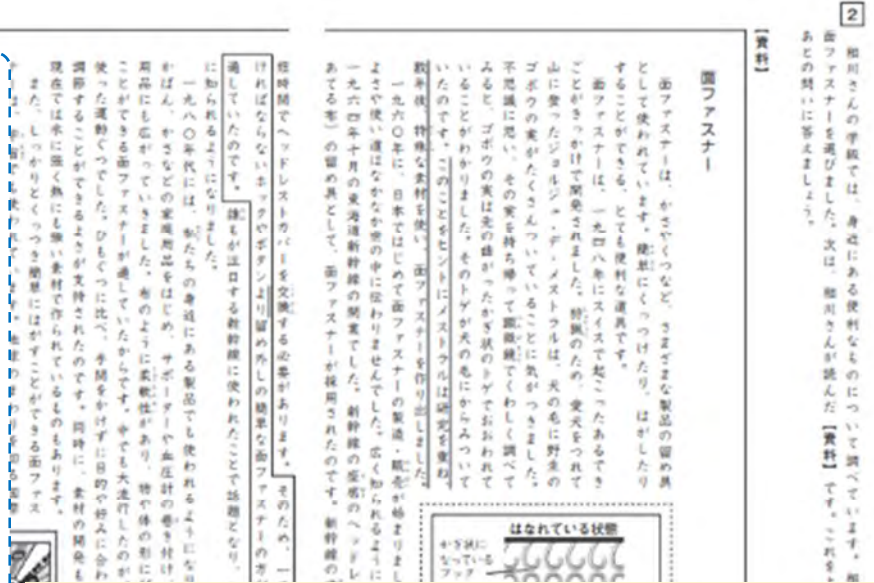
調査問題

【問題の概要】

相川さんが【資料】を読み、面ファスナーが宇宙でも使われていることについてまとめようとしている。これを踏まえて、必要な情報を見付けて、下記の条件に当てはめて書く場面。

〈条件〉

- ①面ファスナーのよさを取り上げて、国際宇宙ステーションでの使われ方について書くこと。
- ②【資料】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- ③50字以上、70字以内で書くこと。



【正答例】面ファスナーはしっかりとくっつきかん単にはがせることから、物がうかぶ国際うちゅうステーションの中で、身の回りの全ての物の固定に使われている。(70字)

最も多かった誤答とは・・・

条件①国際宇宙ステーションでの使われ方を書くことはできているが、面ファスナーのよさを取り上げて書くことができていない。

※誤答の割合は兵庫県の結果

45.1%

課題

目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。

授業改善のポイント

- ☑ 目的に応じて文章全体から必要な情報（語や文）を選び、それらを用いて内容を説明する学習活動を設定する。

小学校
国語

目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約する力を育む授業実践

- (1) 単元名 「要約するとき」(第4学年 光村図書)
(他教科書との関連「パラリンピックが目指すもの」第3学年 東京書籍)
- (2) ねらい 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。
- (3) 学習指導要領における領域・内容
〔第3学年及び第4学年〕思考力、判断力、表現力等 C 読むこと
ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること

国研「授業アイデア例」



実践事例

■ 目的に応じて文章全体から必要な情報（語や文）を選び、それらを用いて内容を説明する学習活動を設定する。

◆めあて：要約について知り、身近な文章を要約して読み合おう◆



この要約は「誰に」「何のために」書かれたものが確認しましょう。

【先生が作成した要約例】

写真を使って何かを伝えるときには、中谷日出さんの「アップとルーズで伝える」を読むと参考になります。これには、次のようなことが書かれています。

写真やえい、それは、部分を大きくうつす「アップ」と、広い範囲をうつす「ルーズ」を選んで組み合わせたりして使うことが大切です。アップは細かい部分の感じが分かりますが、うつされていない部分は分かりません。ルーズは、広い範囲の感じが分かりますが、細かい部分は分かりません。テレビや新聞では、目的に応じてアップとルーズを選んで使います。アップとルーズをいしきすれば、伝えたいことが、受け手に伝わるのです。

このように、中谷さんは、写真のしめし方について大切にしたいことを書いています。写真で何かを伝えるとき、ぜひ読んでください。

写真を使う人に向けて「何かを伝えるとき」という目的があります。



どんなことがまとめられているのか、本文に線を引いて比べてみましょう！

本文と比べると元の構成や表現を生かして、目的に合わせて文などが短くなっています。



【要約のポイント】

- ①誰に何のために要約するのか等、まとめる文の量を確かめる。
- ②元の文章の構成（説明文・物語文等）に合わせてまとめる。
- ③要約した部分と、自分の意見とを区別する。

教員が一方向的にポイントを示すのではなく、本文と要約文を比較させながら、要約するポイントを児童自身に考えさせて、まとめていくようにする。

学びを生かして

【説明文の要約】

「思いやりのデザイン」について「インフォグラフィックス」を知らない人に「インフォグラフィックスを作るときに大切にしていること」をふまえて120字で要約しよう。



付せんを活用して、**事実は赤、考えは青と色分けして書き、順序を入れ替えながら要約文の組み立てを考えてみましょう。**

【友達と交換して読み、気付いたことを伝えよう】

「インフォグラフィックス」について説明や、作る時に大切なことがきちんと書かれています。

「インフォグラフィックス」について説明や、作る時に大切なことがきちんと書かれています。



気付いたことを伝えることは、自分の要約との共通点や相違点を比較することになり、今後、別の場面で活用してみようという学びにもつながります。

【物語文の要約】

「白いぼうし」のお話を下級生に宣伝するために、物語のあらすじについて必要なことを意識してまとめてみよう。

必要なことは、だれが・いつ・どこで・何をしたのかという「5W1H」を意識してまとめることです。



【友達と交換して読み、伝わってきたことを付せんに書こう】

付せんに書くことで、短い言葉で伝えようとする意識がもてました。



「白いぼうし」のお話を下級生に宣伝するために、物語のあらすじについて必要なことを意識してまとめてみよう。

ポイント

本単元以外にも、スピーチで「気になるニュース」を取り上げて友達に話したり、読んだ本のおもしろさをポップに書いて図書室で紹介したりする等、相手や目的を意識して内容を短く要約したものに自分の考えを加えるような学習活動を日常的に取り入れることで、要約する力を身に付けるようにする。

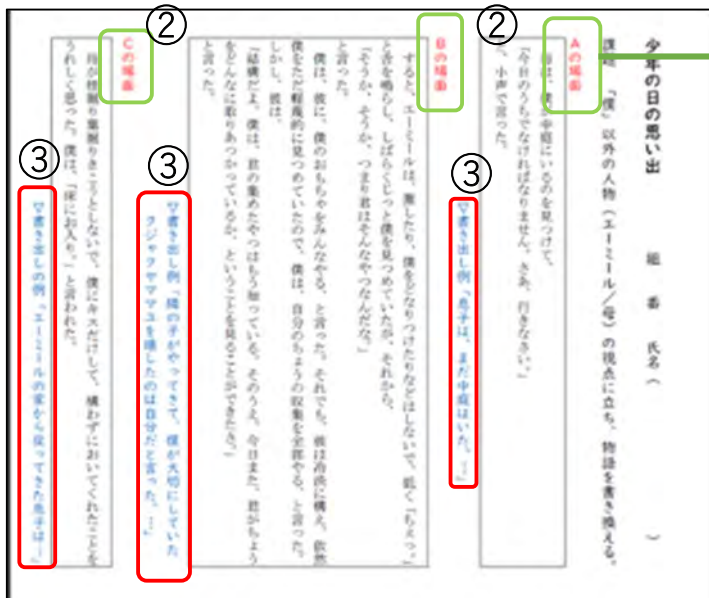
- ① 前時の学習を振り返り、「僕」の心情についての生徒自身の考えを発表する。
* 「僕」の視点から「エーミール」と「母」がどのように描かれているかを押さえ、同じ出来事を別の視点から見た場合にどのように見えるかを想像させる。
- ② A～Cの場面から一つ選び、別の人物の心情を考える。
- ③ 〈書き出し〉でつまずく生徒には「書き出し例」を参考に書かせる。
- ④ 本文の内容を変えることなく、会話文はそのまま引用させる。
- ⑤ 書き換えた文章を読み合い、推敲し、作品を仕上げる。

以下では②～⑤について、具体的な事例を掲載しています。

■文章中の「ものの見方や考え方」が表れている部分に着目し、引用しながら自分の考えを伝える場面を設定する。

別の人物の視点に立ち、物語文に描かれた出来事について捉え直し、本文の表現を手がかりに想像をふくらませながら書く活動に取り組ませる。

◆学習課題：「僕」以外の人物（エーミール／母）の視点に立ち、物語を書き換える◆



【書き出し例】
母の視点
「息子は、まだ中庭にいた。」

【Aの場面】
僕が母に罪の告白をして中庭にいる場面

- 場面を決められない生徒もいるので場面を限定する。
- 【書き出し】でつまずく生徒には書き出し例を参考に書かせる。
- 会話文はそのまま引用させる。



文章中から会話文を適切に引用して、物語を再構成することで、「僕」以外の人物の「ものの見方、考え方」を捉え、作品の読みが深まるようにする。

④
「今日のうちでなければなりません。さあ、行きなさい。」
と声をかけると、隣の家に向かって歩きはじめた。

⑤
謝りに行くよう「きっぱり」言った「母」の様子がよく分かる文章だね。他に工夫できることないかな？

例えば、「母」が「僕」の罪の告白を「つらいことだった」って感じていることを、もっと伝えるように書くのはどうかな？

推敲



自らの学びを自覚させるために、書き上げた作品の表現の工夫について自分の考えを明らかにして、推敲し合うようにする。



■帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題

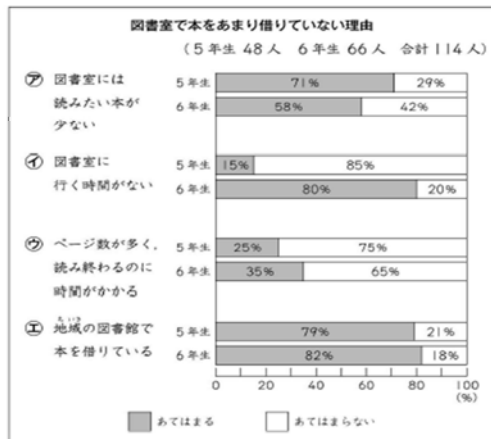
調査問題

(4) 次に、ひよりさんたちは、読書が好きなのに、図書室で本をあまり借りなかった114人に着目しました。



図書室で本をあまり借りていない理由について、5年生と6年生で、ちがいがあのでしょうか。

そこで、114人分のアンケート調査の結果を、5年生と6年生に分けて、下のグラフに表しました。



【問題の概要】

■図書委員会の児童がもった「5年生と6年生は、ほかの学年より本を借りていないのではないか」という問題意識から、貸し出し冊数を調べ、その結果から5年生と6年生にアンケート調査を行い、その結果の帯グラフから、5年生と6年生で「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが一番大きい項目とそれぞれの割合を、言葉と数を使って書く問題。

【正答例】5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、一番大きい項目は、①図書室に行く時間がないです。5年生が15%で、6年生が80%です。

最も多かった誤答とは・・・

「⑤ 地域の図書館で本を借りている」を表す言葉や記号を書いているもの

※誤答の割合は兵庫県の結果

15.9%

課題

複数のデータについての項目間の違いに着目できず、データの特徴や傾向を読み取ることができていないこと。

授業改善のポイント

- ☑ 複数のデータについて項目の割合を比較するために、グラフからそれぞれの割合を読み取るとともに、各項目の特徴や傾向を多面的に捉え、結論を考察できるようにしていく場面を設定する。

小学校
算数

複数のデータの持つ特徴や傾向を見直すことで、各項目の特徴や傾向を多面的に捉え、考察する力を育む授業実践

- (1) 単元名 折れ線グラフ(第4学年 啓林館)
- (2) ねらい 3つの折れ線グラフから自分の結論に合うグラフを選び、そのグラフの目盛りや幅の違いに気づき、1つのグラフにつくり替えることで、その特徴や傾向を多面的に捉える力を養う。
- (3) 学習内容の系統

第4学年
折れ線グラフ

第4学年
変わり方

第6学年
比例・反比例

国研「授業アイディア例」



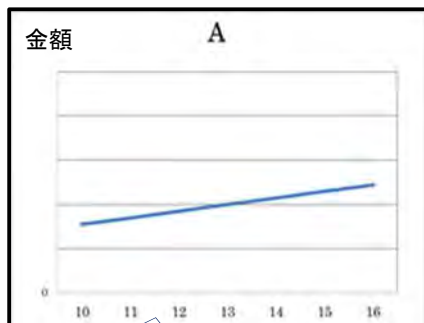
■複数のデータについて項目の割合を比較するために、グラフからそれぞれの割合を読み取るとともに、各項目の特徴や傾向を多面的に捉え、結論を考察できるようにしていく場面を設定する。

◆学習問題：貯金額が一番多いのはだれかを考える◆

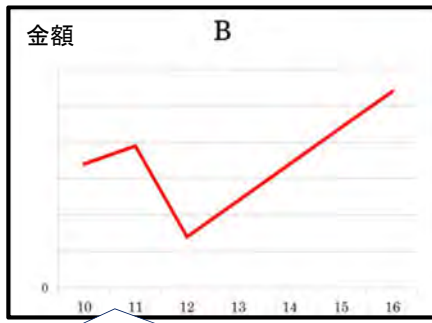


3つのグラフは、A、B、C3人の貯金額を表しています。
だれが一番上手に貯金をしていますか？その理由も考えましょう。

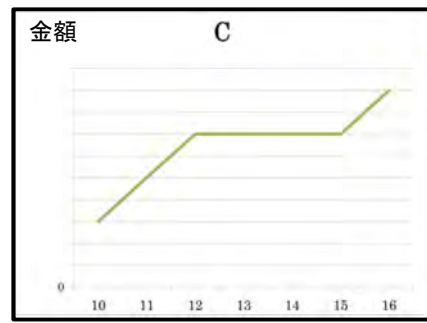
【個人解決】 グラフの特徴から判断する



Aのグラフだったら毎年必ず
増えているので、Aの貯金額
が多いと思う。



Bのグラフは一度減っているけど、
13歳からは急に増えているから
Bの貯金額が多いと思う。



幅もバラバラで比べにくいなあ。
どうすれば比較しやすくなるのか
な。



ポイント

あえて目盛りや幅の大きさが違うグラフを提示し、比較させることで、比べる際の視点（必要な目盛りやグラフの幅）に自ら着目できるようにする。



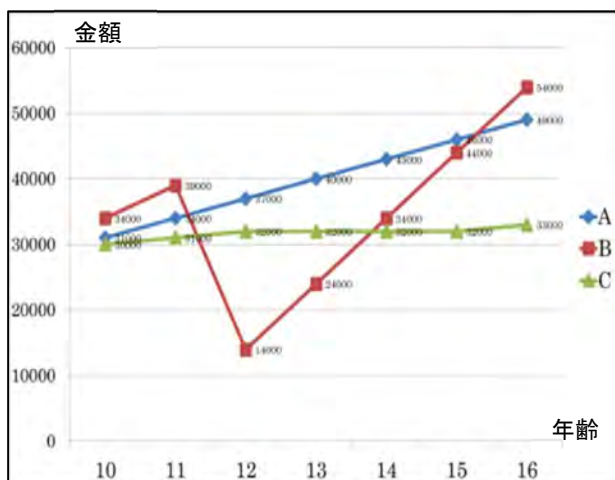
どこに着目すれば、貯金額が一番多いのかが分かりますか？

【全体交流】 グラフを1つにつくり替え、考察する

社会科の気温のグラフで、3
つのグラフが一つにまとま
っていたのを見たよ！



目盛りを揃えて、重ねれ
ば分かりやすいんじゃないか
な？



児童から出たグラフを
捉える視点を教員が整理
し、どこに着目して考察す
るのかを明確にする。

あれ!?
Bが一番多いんだ！目
もりをそろえて、1つの
グラフにつくり替えると
分かりやすいね。



ポイント

そのグラフの目盛りや幅の違いを揃えて、1つのグラフにつくり替えることで、その結論の妥当性について多面的に捉えられるようにする。このように学習したことを活用して問題解決をする場面を繰り返し設定することが大切である。



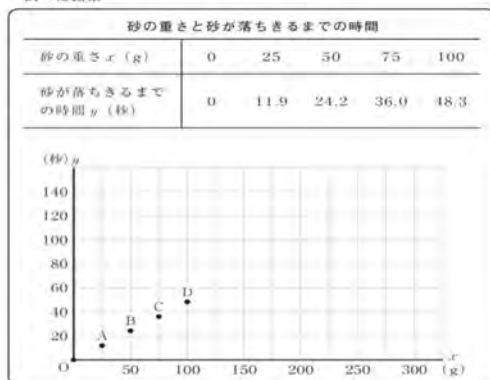
■事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるかどうかをみる問題

調査問題

- 7 宇崎委員の雄斗さんは、2分間スーザの時間ををはかるための砂時計をペットボトルで作ることにしました。その砂時計は、ペットボトルに砂を入れ、砂を通すための穴をあけた厚紙をペットボトルの口にはさんで作ります。
- 雄斗さんは、ペットボトルに入れる砂の重さを決めると、砂が落ちきるまでの時間が決まると考えました。そこで、砂の重さが x g のときに、砂が落ち始めてから落ちきるまでの時間を y 秒として調べ、その結果を、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



調べた結果



【問題の概要】

砂時計について、砂の重さと砂が落ち始めてから落ちきるまでの時間の関係をグラフに表した際、点の並びが一直線上にあると考えることで、砂の重さと砂が落ち始めてから落ちきるまでの時間の関係が比例であるとみなし、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する問題。

【正答例】・原点 O を通る直線のグラフをかき、 $y=120$ のときの x 座標を読む。

・ y を x の比例の式で表し、その式に $y=120$ を代入し、 x の値を求める。

・表から比例定数を調べ、その比例定数を使い2分で落ちきる砂の重さを計算する。

最も多かった誤答とは・・・

グラフ（用いるもの）を延長することは説明しているが、 $y=120$ のときの x 座標を読むこと（用い方）を説明できていない。

※誤答の割合は兵庫県の結果

14.6%

課題

問題解決の方法を数学的に（グラフや式を使って）説明できないこと。

授業改善のポイント

- ☑ 問題解決の方法について、「用いるもの」と「用い方」の両方を指摘し、的確に説明できるように指導する。

中学校
数学

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力を育む授業実践

- (1) 単元名 一次関数の利用（第2学年 啓林館）
- (2) ねらい 具体的な事象から取り出した数量の関係から一次関数の関係を見出し、表、式、グラフを用いて問題解決することができる。
- (3) 学習内容の系統

第1学年
比例・反比例

第2学年
一次関数

第3学年
関数 $y=ax^2$

国研「授業アイディア例」



実践事例

■問題解決の方法について、「用いるもの」と「使い方」の両方を指摘し、的確に説明できるように指導する場面を設定する。

◆学習課題：水不足への対策が取られるのはいつだろう？◆

下の表は、あるダム貯水量の変化をまとめたものです。

ダムの貯水量が650万 m^3 になると水不足への対策がとられます。

8月6日以降も同じように変化を続けるとすると、貯水量が650万 m^3 になる日を予測する方法を説明しよう。

【クラス全体】事象をグラフ化する

日にち	貯水量 (万 m^3)
7月31日	975
8月1日	948
8月2日	926
8月3日	900
8月4日	873
8月5日	851

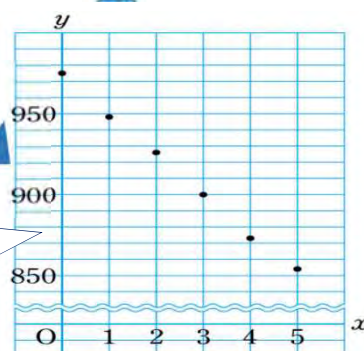
どんな減り方をしているのかな。

減り方がバラバラだね。どうしよう。

変化の様子はグラフにしたほうが分かりやすいよね。

おお！点が一直線上にあるみたい、一次関数が使えそう。

グラフや式を使ったら予測できそうだ！



既習を想起させ、数値をグラフ化する意識を持たせることで、一次関数の関係を見出すように促す。

【ペア交流】説明を聞き合って、説明不足の部分を出し合う。

【説明】グラフを延長して650のところを見ればいい

何を見ればいいか分からないよ

座標を使って説明すれば分かりやすいよ

グラフを延長して **y 座標が 650 のときの x 座標を読む**

【説明】x 日後の貯水量を y 万 m^3 として関係式を作って求める

式をどう使うかを書かないと説明にならないよ

式のどこに何を代入するかを説明するといいね

x 日後の貯水量を y 万 m^3 として関係式を作り、**y = 650 を代入して x を求める**

説明として不十分なものを取り上げてクラスで意見を出し合い、より説得力のある分かりやすい表現を作り上げる工夫も必要である。

ポイント

グラフを書くだけでなく、そのグラフをどのように活用して答えを導き出したのかについて、グラフの座標や式を関連付けながら説明する。

関数を使って身の回りの問題を解決する経験を積ませることが、とても大切である。



「学びに向かう力」を育成する授業改善 及び指導体制の充実に向けて

I 「学びに向かう力」について

第Ⅲ章では、「学びに向かう力」及び授業改善のポイントについて、詳しく触れていきます。

「学びに向かう力・人間性等」

新学習指導要領において育成を目指す資質・能力のうち、「学びに向かう力、人間性等」については、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等を育成することとされている。

「学びに向かう力」の育成に向けて

学びに向かう力の育成は幼児期から成人までかけて徐々に進んでいくものであるが、初期の試行錯誤段階を経て、様々な学びの進め方や思考ツールなどを知り、経験していくことが重要である。

とりわけ小学校中学年以降、学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげるなど、**学習の進め方を自ら調整していくことができるよう、発達の段階に配慮しながら指導することが大切**である。

また、中学校以降において、多様な学習の進め方を実践できる環境を整えることも重要である。**授業改善に当たっても、学習の進め方（学習計画、学習方法、自己評価等）を自ら調整する力を身に付けさせることを一つの柱として行うことが考えられる。また、学校の授業以外の場における学習の習慣や進め方についても視野に入れ、指導を行うことが重要**である。

【令和3年1月26日 中教審答申 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して 抜粋】

「学びに向かう力・人間性等」の評価について

「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。

①観点別学習状況評価

主体的に学習に取り組む態度

粘り強く学習に取り組む態度

自ら学習を調整しようとする態度

挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動ではなく、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することがポイントです。

参考に！

兵庫県教育委員会
「学習評価の在り方」
リーフレット



②個人内評価

感性、思いやりなど

個人内評価の対象となるものについては、児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう、日々の教育活動等の中で児童生徒に伝えることが重要です。

「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることがポイントです。

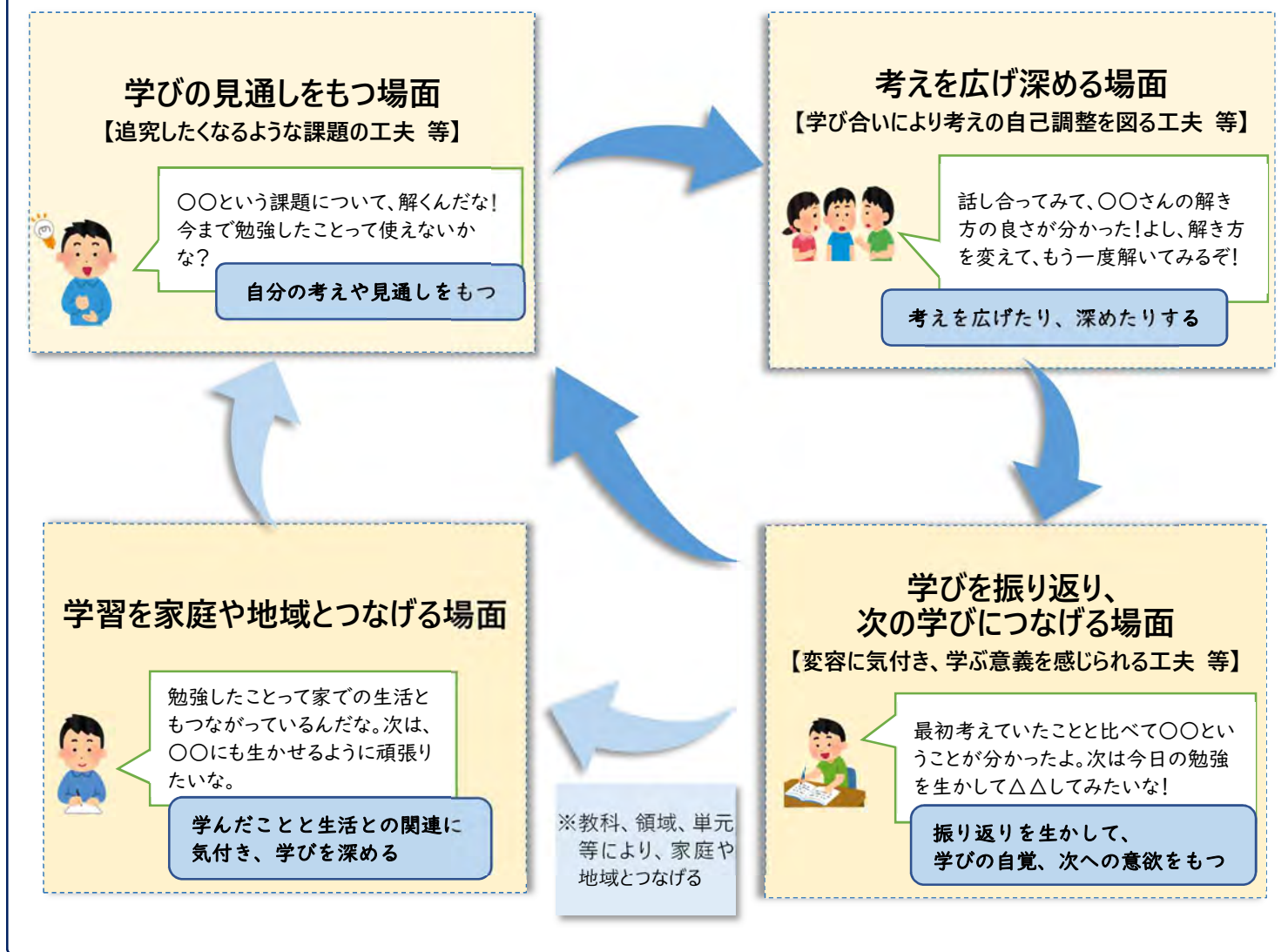


「学びに向かう力」と学習過程との関係

学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整していくことです。

学習過程において、児童生徒は自らの学習状況を把握し、学習の進め方について粘り強く試行錯誤することが求められます。

「学びに向かう力」を育成する学習過程〈イメージ〉



「学びに向かう力」を育成するために、以下の場面で工夫をしましょう！

学びの見通しをもつ場面での工夫

考えを広げ深める場面での工夫

学びを振り返り、次の学びにつなげる場面での工夫

学習を家庭や地域とつなげる場面での工夫

2 「学びに向かう力」を育成するための授業改善のポイント

ここからは、「学びに向かう力」の育成に向けた授業改善のポイントについて、具体的な実践事例を基に、お示しします。20ページからの授業実践例は、単元の中から一部の場面を取り上げています。各学校の児童生徒の実態に合わせて、授業改善のポイントを他の単元等でも生かしながら、指導してください。

I **学びの見通しをもつ場面** ➤ 追究したくなるような課題の工夫

- 〈キーワード〉
- 課題を自分ごととしてとらえる課題設定
 - 学習活動のゴールに至るまでの道筋

→ 詳細は 16 ページ

II **考えを広げ深める場面** ➤ 学び合いにより考えの自己調整を図る工夫

- 〈キーワード〉
- 学習の進め方や考えを調整する場面設定
 - 自己の考えを広げたり深めたりできたという実感

→ 詳細は 17 ページ

III **学びを振り返り、次の学びにつなげる場面**

➤ 変容に気づき、学ぶ意義を感じられる工夫

- 〈キーワード〉
- 自分の成長を感じられるような、振り返り等の工夫
 - 学ぶ意義を感じられるような単元計画や授業の設定

→ 詳細は 18 ページ

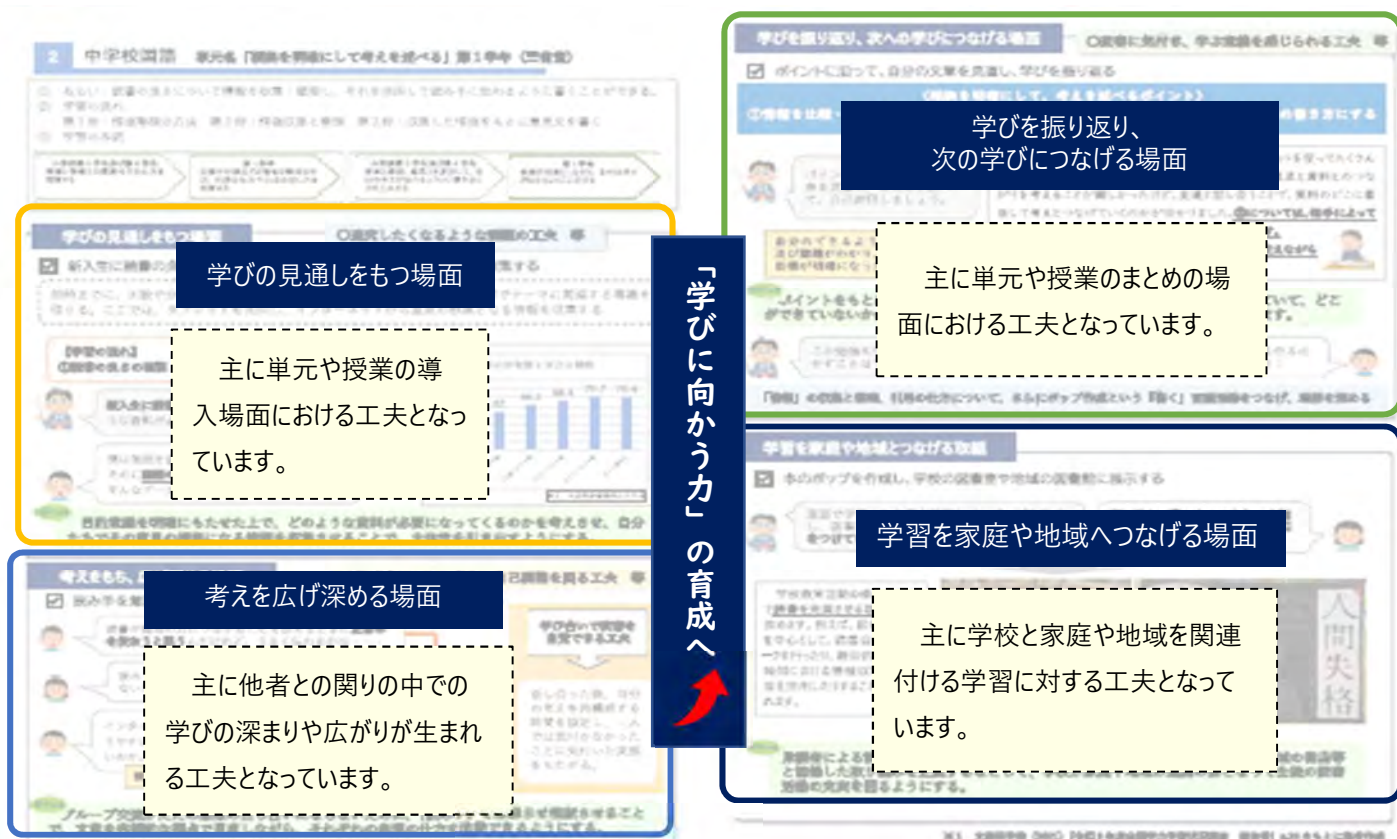
IV **学習を家庭や地域とつなげる場面**

- 〈キーワード〉
- 学習と家庭や地域と関連付けられるような働きかけ
 - 学習内容と家庭や地域との関連が図られる単元計画

→ 詳細は 19 ページ

左のページでお示した「学びに向かう力」を育成するための授業改善のポイントを具体的な授業事例として具現化しています。以下に資料の見方及び要点を載せていますので、それを基に次のページからの事例をご覧くださいと思います。

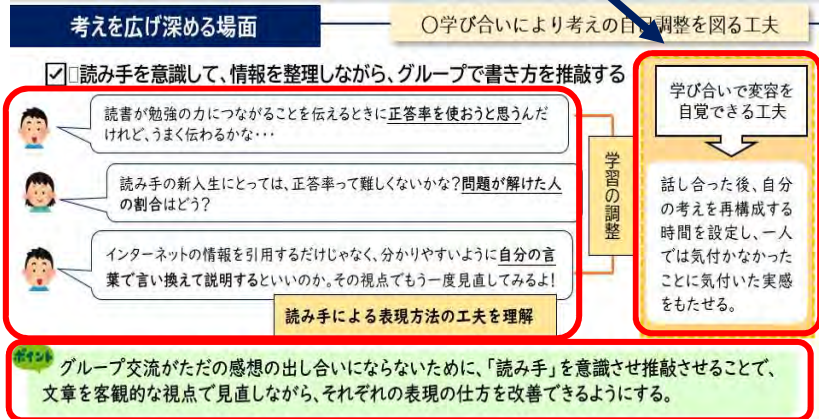
指導資料ページの見方



既習事項や他者との対話で気付いたことを活用して自らの学習を調整する具体的な発言等が表出された様子を掲載しています。

児童生徒に話し合い等の目的や意図等を共有し、活動の意義を実感させるための取組ポイントを掲載しています。

それぞれの4つの場面において、「学びに向かう力」を育成するための授業改善のポイントを示しています。



「学びに向かう力」を育成するための授業改善のポイント詳細ページ・・・➤

学びの見通しをもつ場面 ➤ 追究したくなるような課題の工夫



児童生徒が学ぶことに興味や関心、目的意識を明確にもつことや見通しを持って粘り強く取り組むことが大切です。

振り返ってみましょう

- 興味や関心を高めながら課題を自分ごととして捉え、課題解決への意欲をもてるような課題設定を行っていますか。
- 学習活動の見通しを明らかにし、学習活動のゴールとそこに至るまでの道筋を明確にもつことができるような学習活動の設定を行っていますか。

こんな指導になっていませんか？

☑めあて（学習課題）を一方向的に示している



（授業がスタートしてすぐに）今日のめあてはこれです。

ん？前の時間は何をしたかな？めあてって言われても、考える気がおきないよ…



改善ポイント

- 前の時間の振り返り等から課題を導き出す。
- 友達の考えとのずれや予想とのずれ等、「なぜ」「どうして」を引き出すような導入の工夫を行う。等

☑見通しをもてない児童生徒がいるまま、授業を進めている



（問題文を示した後）早速、考えてみよう！

どうやって考えればいいのか全く分からない…おいていかないで…



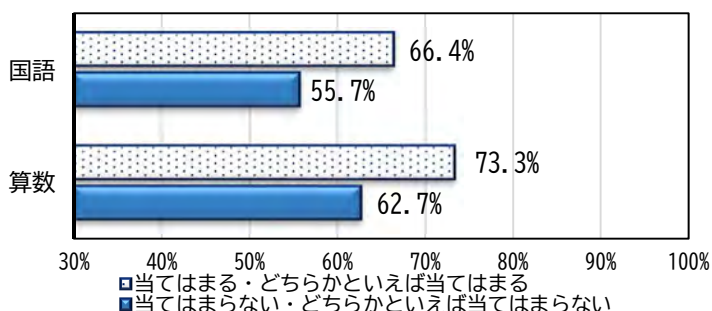
改善ポイント

- 既習を振り返り、解く方法を話し合う時間を設定する。
- 課題解決のプロセスを視覚的に示す等、ワークシートや板書等を工夫する。等

兵庫県データから見たこと（小学校）

【主体的・対話的で深い学びとの関連！】※児童生徒質問紙の分析を基に

【児童質問紙】授業では課題の解決に向けて自分から考え、自分から取り組んでいたと思いますか



主体的な学びに関連する質問項目（＝「学びに向かう力」の授業改善のポイントとも重なる項目）について、肯定的な回答をしている児童ほど、平均正答率が高くなっています。

課題を自分ごととして捉えさせることや見通しをもたせるなど「主体的・対話的で深い学び」による授業改善を行うことは、学力向上につながるということが分かります。

II 考えを広げ深める場面

➤ 学び合いにより考えの自己調整を図る工夫



対話等の学び合いを通して、学習の進め方を自ら調整したり、試行錯誤しながら考えを修正、調整したりすることで、新たな考えや解決策等に気づき、粘り強く学習に取り組む力の向上につながります。

振り返ってみましょう

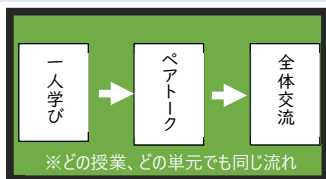
- 自分の考えをしっかりとつ場面と友達との関わりの中で学習の進め方や考えを調整する場면을学習のねらいに合わせて意図的に設定していますか。
- 話し合う目的や意図を児童生徒と共有しながら、新たな思いや考えに気づき、自己の考えを広げたり深めたりできたと実感できる工夫を行っていますか。

こんな指導になっていませんか？

☑ 目的を考えず形式的な流れで話し合いを行っている



一人で考えさせたから、次は話し合わせて、全体で意見を出そう！



いつも同じパターンであきてきたよ…。



改善ポイント

- 児童生徒の実態や授業のめあて等を踏まえた上で、効果的な話し合いの形態を吟味し設定する。 等

☑ 話し合いの目的を理解させていないまま、話し合わせている



(意見が出ないな) 困っている人が多いので相談してみよう！

何について相談するんだろう…自分の考えがないと相談もできないよ…



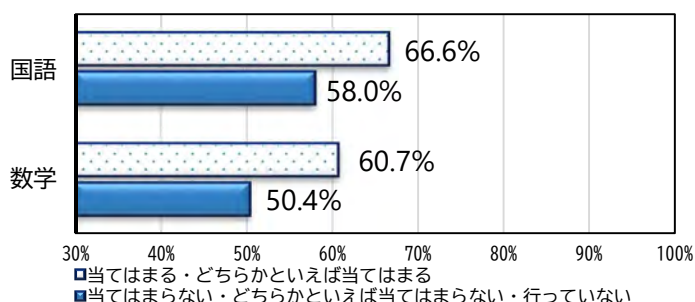
改善ポイント

- 一人一人が考えをもった状態を把握し、「目的」や「方法」を共有することにより、児童生徒が話し合う道筋を具体的にイメージできるようにする。 等

兵庫県データから見たこと（中学校）

【主体的・対話的で深い学びとの関連 II】※児童生徒質問紙の分析を基に

【生徒質問紙】学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



対話的な学びに関連する質問項目でも同様に、肯定的な回答をしている生徒ほど、平均正答率が高くなっています。

「主体的・対話的で深い学び」を充実させていくためには、すべての子ども達が自分の考えをもった上で、何のために、どんな方法で話し合うのかを明確にし、発問等を工夫することが大切になってきます。

Ⅲ 学びを振り返り、次の学びにつなげる場面

➤ 変容に気付き、学ぶ意義を感じられる工夫



学習活動の過程で「できた!分かった!」という実感をもたせることや学んだことを他の学習等で生かす経験を積み重ねることは、自己の高まりや学ぶ意義等を感じ、次の学習意欲につながります。

振り返ってみましょう

- 学習後に「何が分かったのか」「何が身に付いたのか」を感じられるような、振り返り等の工夫をしていますか。
- 「今後の学習で役立った」また、「他の教科等で活用できた」という実感がもてるような単元計画や授業を設定していますか。

こんな指導になっていませんか？

☑ 時間がなくなり、振り返りを行えていない



(チャイムが鳴って)
振り返りはまたにします。
では、授業を終わります。

また、振り返りの時間
がない。振り返りって
いらないのかな??



改善ポイント

- まとめや振り返りの時間を確保した上で、これまでの授業における発問や活動等を精選し直し、授業のタイムマネジメントを行う。 等

☑ 漠然とした振り返りを行っている



今日の学習の振り返
りを書きましょう。

何について書けばいいの
かな?分からないなあ...



改善ポイント

- 具体的な振り返りの視点を与えたり、一時間の中での自分の考えの変化を書かせたりするなど、変容を自覚できるような振り返りを行う。 等

さらに！

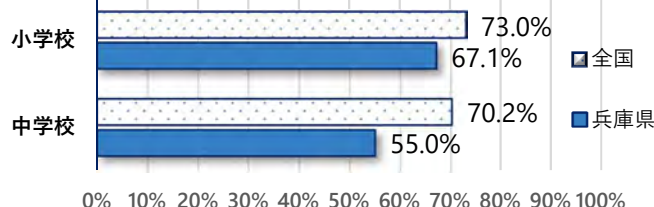
総合的な学習の時間の充実で学ぶ意義を

〈総合的な学習の時間において、探究的な学習の充実を図りましょう!〉



学んでいることにどんな意味があるのか、何に役に立つのかを知ることは、学びへの意欲を大きく左右します。

【児童生徒質問紙】総合的な学習の時間では、自分で課題を立て情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



学ぶことを活用する場面を設けることで、学ぶことの意義を実感することができます。そのためには、「インタビューをする」「調べる」「情報を処理する」というように、ある教科で身に付けた力を、他の教科でも生かすといったカリキュラム・マネジメントの視点が大切です。その核となるのが総合的な学習の時間であり、各教科で身に付けたことを活用して探究をするという学習過程を設定するようにしましょう。

Ⅳ 学習を家庭や地域とつなげる場面



学習したことを学校だけでなく、家庭や地域とつなげることにより、日常生活との関連を自覚することができ、そのことで学ぶ意義や目的意識が明確になり、自ら学ぼうとする力が高まります。

振り返ってみましょう

- 学校での学習と家庭や地域と関連付けるような自主学習課題や家庭学習への働きかけを行っていますか。
- 単元のまとめの場面等で学習内容と家庭や地域との関連が図られるような単元計画を作成するようにしていますか。

こんな指導になっていませんか？

☑家庭学習（自主学習等）を本人任せにしている



家での自主学習は、何でもいいからしてきてね。

何を学習すればいいかわからない。漢字でも書いておいたらいいかな。



改善ポイント

- 家庭学習での目標を明確に持たせ、達成するための計画を立てる。
- 家庭学習の手引きを学校と児童生徒、家庭で共有できるような内容にし、相互に協力しながら取り組む。等

☑学習内容と家庭や地域とを関連付けることが少ない



授業は教科書だけを教えればいいか。

勉強したことで僕たちの生活ってつながっているのかな～。



改善ポイント

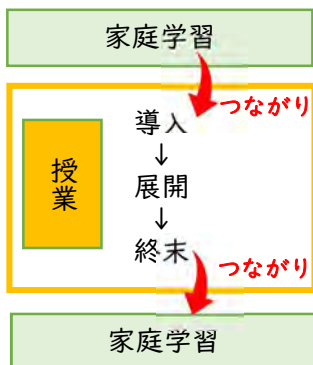
- 実生活と関連した授業を意識し、学習したことが生活の中でどのように使われているかを考えたり、見つけたりする。等

さらに！

家庭学習とつながる授業づくりで学ぶ意欲を

〈授業の中で家庭学習とつながる導入や終末を設定し、学校での学習を家庭へとつなげましょう〉

児童生徒が家庭で学習してきた内容を導入段階で取り上げ、家庭学習と授業とのつながりを意識できるようにしましょう。



家庭学習を行う上では、授業で使用した教科書やノート等を活用できるようにすることが大切です。そのためには、「めあて・振り返り」を明確にした学びの道筋がわかる「板書」を心がけて、学習内容を確実にノート等にまとめることができるように指導するようにしましょう。

- ### (3) 学習の系統

引用したり、図表やグラフを用いたりして、
自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫する

学びを振り返り、次への学びにつなげる場面

○変容に気づき、学ぶ意義を感じられる工夫

☑ 視点を明らかにして何を学び、どう学んできたのかについて、自分の言葉で振り返る



学習を通して、3つの視点で振り返りましょう。

<振り返りのポイント>

- ①新たに気付いたこと
- ②資料の効果について、学習の初めと終わりでの変化
- ③まだ分からないこと・もっと調べてみたいこと

【振り返り例】

①で、資料と文章の内容が合っこそ、言いたいことが伝わるのだと新たに分かりました。

②で最初は資料があるとすごい意見文が書けた気がしていたけど、自分の考えに一致しているかを考えないと説得力のある文章にならないと分かりました。

③では…

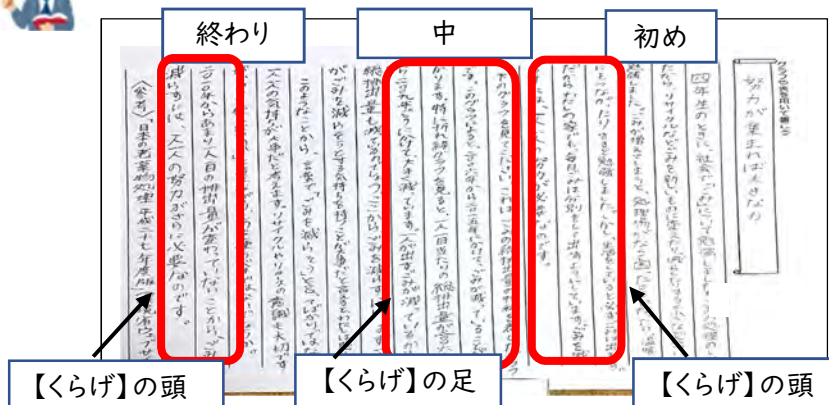
学んだことで、自分の考えがより良くなったと感じた児童

「書く」学習へ

☑ 今までの学習を生かし、意見文を書く



どんなことに気をつけて意見文を書けばいいか、今までの学習をもとに確認しましょう。



【くらげ】の頭が「初め」と「終わり」にきて、足の部分が「中」にくるといいね。

構成は…

意見文の条件は、「考えにあった効果的な資料を用いる」だったよね！

資料は…



【読むこと】で学習したことを【書くこと】の学習へとつなげ、学んだ知識を活用する場面を一人一人に設定することで、学ぶ意義をより感じられるようにする。

学習を家庭や地域とつなげる場面 〈特別活動〉

☑ 資料を用いて、学校行事のお知らせを作成する



もうすぐ音楽会ですね。〇〇小学校の音楽会に、たくさんの方に来ていただきたいですね。どんなお知らせにしたらいいですか？



お知らせに資料を載せるといいね。どんな資料を載せるといいのかな。



みんなが音楽会で何が一番見せ場だと思っているかアンケートをとって、それを載せるのはどうかな。



どんなことをがんばってきたかも知らせたいね。

〇〇小学校 音楽会

校区のみなさんが、楽しみにしている音楽会がもうすぐあります。今年もがんばって練習してきました。

まず、この資料をみてください。これは、「みんなが音楽会で一番見せ場だと思っていること」のアンケート結果です。

この資料からは、心一つにして合奏や合唱をしていると

ころが一番の見せ場だと思っている人が多いことが分かります。その理由は、「みんなで作る音楽会がいちばんいいから」です。

わたしたちは、△△ということもがんばっていました……



日時：〇月〇日 △時～

場所：〇〇小学校体育館



資料を用いたり、必要な事柄を引用したりして文章を書くことの良さを生活や学校行事、地域行事と関連付けて学習内容を見直すとともに、様々な場面で活用していこうとする意欲付けになるようにする。

【家庭より】伝えたいことがグラフでよく分かるお知らせですね。



- (1) ねらい 読書の良さについて情報を収集・整理し、それを活用して読み手に伝わるように書くことができる。
 (2) 学習の流れ
 第1時:情報整理の方法 第2時:情報収集と整理 第3時:収集した情報をもとに意見文を書く
 (3) 学習の系統

小学校第5学年及び第6学年
情報と情報との関係付けの仕
方を理解する

第1学年
比較や分類などの情報の整理
の仕方、引用の仕方や出典の
示し方を理解する

小学校第5学年及び第6学年
事実と感想、意見とを区別して、
自分の考えが伝わるように書き
表し方を工夫する

第1学年
根拠を明確にしなが、自分の
考えが伝わるように工夫する

学びの見通しをもつ場面

○追究したくなるような課題の工夫

- ☑ 来年度の入学生に読書の良さについて伝える文章を書くために必要な情報を収集する

課題:中学校に入学したばかりの後輩に、読書の良さを伝えるためには、どのような文章を書けばいいのだろう。

※本単元は、中学校1年生の3学期に行う。作成した文章の中からうまくできているものを選び、次年度の新入生オリエンテーリング等で使用することを伝えて、生徒の学習意欲の喚起を図る。

前時までに、比較や分類といった情報収集の方法について確認し、学校図書館でテーマに関連する書籍を借りる。
 ここでは、タブレットを活用し、インターネットから意見の根拠となる情報を収集する。

【学習の流れ】

- ①読書の良さの確認 ②情報収集 ③意見と根拠で文章を整理
 ④グループ交流と推敲 ⑤清書



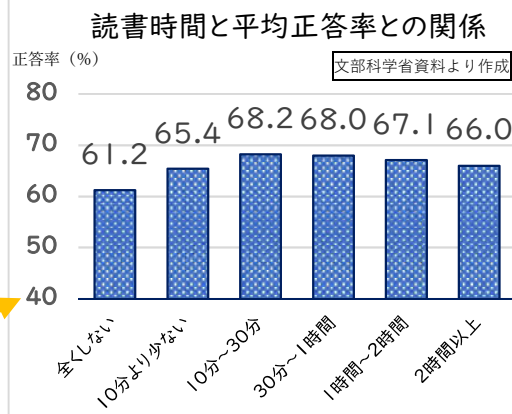
中学校に入学したばかりの後輩に読書の良さを伝えるために、どのような資料が必要ですか？



僕は物語を読むのが楽しいから、本が好き。それに国語の力が上がる気がするな。そんなデータはないかな？

ポイント

目的意識を明確にもたせた上で、どのような資料が必要になってくるのかを考えさせ、自分たちでその意見の根拠になる情報を収集させることで、主体性を引き出すようにする。



考えを広げ深める場面

○学び合いにより考えの自己調整を図る工夫

- ☑ 読み手を意識して、情報を整理しながら、グループで書き方を推敲する



読書が勉強の力につながることを伝えるときに正答率を使おうと思うんだけど、うまく伝わるかな…



読み手の新入生にとっては、正答率って難しくないかな？問題が解けた人の割合はどう？



インターネットの情報を引用するだけでなく、分かりやすいように自分の言葉で言い換えて説明するといったのか。その視点でもう一度見直してみるよ！

読み手による表現方法の工夫を理解

学び合いで変容を
自覚できる工夫

話し合った後、自分の考えを再構成する時間を設定し、一人では気付かなかったことに気付いた実感をもたせる。

ポイント

グループ交流がただの感想の出し合いにならないために、「読み手」を意識させ推敲させることで、文章を客観的な視点で見直しながら、それぞれの表現の仕方を改善できるようにする。

☑ 考えを述べるポイントに沿って、自分の文章を見直し、学びを振り返る

〈根拠を明確にして、考えを述べるポイント〉

①情報を比較・分類し精査する ②意見の根拠を明確にする ③読み手に伝わる文章の書き方にする



〈考えを述べるポイント〉をもとに、書いた文章を見直し、はじめと比べて、自己評価しましょう。

自分のできるようになったこと及び課題が分かり、次への学習の目標が明確になった生徒

①については、自分の意見にあった資料をインターネットを使ってたくさんの中から絞ることができたと思います。②については、意見と資料とのつながりを考えることが難しかったけど、友達と話し合うことで、資料のどこに着目して考えとつなげていくのかが分かりました。③については、相手によって表現の仕方を変えることがまだできていないと思います。

だから、次は、小学生向け、大人向けなど目的意識を変えながら意見文を書く練習をしたいと考えています。



ポイント

〈考えを述べるポイント〉を基に、自分の文章を見直し、相互評価をさせることで、互いの文章の良さを認め合い、次への学習意欲を喚起する。



この勉強を何か学校の活動に生かすことはできないかな？

あ！学校の図書館で全校生向けに、ポップを作るのはどうかな？伝えたい相手がはっきりしているので書けそう！



「情報」の収集と整理、引用の仕方について、さらにポップ作成という「書く」言語活動をつなげ、理解を深める

学習を家庭や地域とつなげる場面 〈特別活動〉

☑ 本のポップを作成し、学校の図書室や地域の図書館に展示する



国語で学習した内容を活用して、ポップを作成し、図書室に展示しましょう。どんなことに気を付けてポップを作成したらいいですか？

誰に読んでもらいたいのかという相手意識が大切だったよね。

私は、文豪の作品に触れていない人たちに、そのような本を読んでもらいたいから、そのはじめとして、有名な作品の書き出しを紹介しよう。



学校教育活動の様々な場面で読書を充実させる取組を進めます。例えば、図書委員会を中心として、読書会やブックトークを行ったり、総合的な学習の時間における情報収集に図書室を活用したりすることが考えられます。



ポイント

保護者による読み聞かせや、文化的な行事としてのビブリオバトル、あるいは地域の書店等と協働した取組を企画するなどして、学校が家庭や地域の連携の要となって生徒の読書活動の充実を図るようにする。

(1) ねらい 小数でわる計算について、その意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して小数のわり算になる場面を捉えて計算できるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

(2) 学習の流れ

第1次 整数÷小数

第1時: (整数)÷(帯小数)の立式とその根拠

第2時: (整数)÷(帯小数)の計算の仕方 (本時)

第3時: (整数)÷(純小数)の立式と計算の仕方

除数と商の大きさの関係

第2次 小数÷小数

練習

第3次 割合を表す小数

第4次 計算の間の関係

学びのまとめ

第4時～第8時

第9時

第10時～第12時

第13時

第14時

(3) 学習の系統

第5学年
小数のかけ算

第5学年
小数のわり算

第5学年
単位量あたりの大きさ

第5学年
割合

第6学年
分数×整数、分数÷整数

学びの見通しをもつ場面

○追究したくなるような課題の工夫

☑ 問題場面を把握し既習との違いを考え、課題解決の見通しをもつ

友達がお店で2.4mのリボンを96円で買いました。その友達から、プレゼントに使うリボンを1mだけゆずってもらうことにしました。このリボン1mのねだんは何円ですか。



今まで習った内容を使うと、どうやったらできそうですか。

整数の式ならできるけど、わる数が小数だから難しいな。

0.1m分のねだんを考えたら整数の式になおせるよ。

そうか。24m分のねだんを考えても整数の式になるぞ。これならできそうだ。

【課題】

どのように計算すれば、小数のわり算の答えを出することができるのだろう。

ポイント 既習との違いからどうすれば問題が解けそうかの見通しをもたせ、課題へとつなげる。

考えを広げ深める場面

○学び合いにより考えの自己調整を図る工夫

☑ 既習の内容や図を使って問題を解き、その方法を理解し、似ているところや良いところを話し合う



考えた計算のしかたについて、似ているところや良いところを中心に話し合ってみましょう。

ひなたさんの考え

0.1m分のねだんを求めてから、1m分のねだんを求めました。

2.4mは0.1mの24倍だから、
0.1m分のねだんは、 $96 \div 24$
1m分のねだんは、その10倍だから、
 $96 \div 24 = (96 \div 24) \times 10$

さくらさんの考え

24m分のねだんを求めてから、1m分のねだんを求めました。

24mは2.4mの10倍だから、
24m分のねだんは、 96×10
これは1m分のねだんの24倍だから、
 $96 \times 24 = (96 \times 10) \div 24$

さくらさんの考え

わり算の性質を使って考えました。

わられる数とわる数に10を掛けても、商は変わらないから、
 $96 \div 2.4 = (96 \times 10) \div (2.4 \times 10)$
 $= 960 \div 24$

どの考え方も、整数でわる計算をもとにしているね。僕はひなたさんと同じ考え方だったよ。

同じだけど、さくらさんのやり方が間違いも少なそうだし、一番簡単だと思うわ。

たしかに。さくらさんのように、わり算の性質を使うと、簡単に整数の計算にすることができるね。次からこのやり方で問題を解きたいな。

学習の調整

学び合いで変容を
自覚できる工夫

誰のどんな意見で
自分の意見が変わったかを理由を明確にして書くようにする。

より簡潔に解ける方法に気づき、解き方を調整しようとしている児童

ポイント 計算の仕方の似ているところや良いところを話し合う活動を通して、複数の考え方の共通性やどの考え方が最も簡単かについて、気付かせるようにする。

学びを振り返り、次への学びにつなげる場面

○変容に気づき、学ぶ意義を感じられる工夫

☑ 習得した知識を活用して問題を解決し、自己の変容を振り返る



先ほどの問題ではいろいろな計算の仕方がありましたが、それを活用してこの問題を解いてみましょう。

ポイント

話し合いのときに気付いた解き方で、適用問題を解き、振り返ることで、自分の学びの深まりを自覚させるようにする。



普段の生活でも小数のわり算が使える、実は使っていたと思うことってありますか。

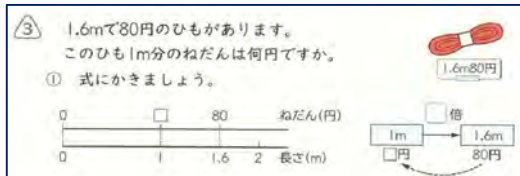
何かを分ける場面・・・委員会で縄を切っていたけど、一人あたりの長さが小数になって同じ長さにするの難しかったんだよね・・・



ポイント

「学びを生かすと次はどんな問題が解けそうか」、「普段の生活で活用できそうか」を考えさせることで、学習内容とのつながりを感じさせ、学ぶ意欲の向上につながるような振り返りを行うようにする。

【適用問題と振り返りシート】



式 $80 \div 1.6 = 800 \div 16 = 50$ 答え 50円

【振り返り】

最初は、小数の計算を整数の計算をもとに考えて解いていたけど、わられる数とわる数に同じ数をかけるというわり算の性質を使うと簡単に問題が解けることが分かったよ。

【今日の学習を生かすと解けそうな問題】

次は、1.6じゃなくて、0.6とか0.06など、もっと小さくしても解けるんじゃないかな？わられる数とわる数どちらも小数にしても、今日勉強したことを使えば解けそうだと思う。

【普段の生活で活用できそうなこと】

次の運動委員会で長いロープを切ってなわとびを作るって言ってたな。次の活動では、小数のわり算を試してみたい。

学習したことと生活とのつながりを意識することで学ぶ意義を感じている児童

学習を家庭や地域とつなげる場面 〈総合的な学習の時間〉

【「総合的な学習の時間」のテーマ：国際理解】

学習のまとめとして、「厳しい状況にある世界の様々な国の人々に対して、自分達にできることは何か」を考えました。そして、ユニセフ募金やペットボトルキャップ回収でポリオワクチンを届けることなど、様々な国際貢献活動に取り組みました。

ペットボトルカップを集めて、ポリオワクチンを届けるためにできること

- ①ポスターで校内へ啓発
- ②校内放送で呼びかけ
- ③チラシを配布し、地域へ協力依頼 等

☑ 地域と学校におけるペットボトルキャップの個数確認に算数で学んだ小数のわり算を活用する



みんなの取組のおかげで、ペットボトルキャップがたくさん集まりました！ワクチンはいくつ届けることができるかな？算数で学習したことが使えませんか。



キャップ1つ：2.3g
全体の重さ：3967.5g

ポリオワクチン1人分：ペットボトルキャップ 860 個

式は、 $3967.5 \div 2.3$ 。10 倍して、 $39675 \div 23 = 1725$ 。
合計は 1725 個だね
つまり、ワクチン二人分を届けることができるね！



あ！小数のわり算！
全体の重さとキャップ1つの重さが必要かな？



ポイント

総合的な学習の時間で課題を解決するために地域とともに協働した取組を考え、その取組に算数の学習を生かすことで、地域連携の大切さを再確認するとともに、学習内容の一層の定着を図るようにする。

(1) ねらい ヒストグラムからデータの分布の傾向を読み取って考察し、判断することができる。

(2) 学習の流れ

第1時:度数分布表

第5時:相対度数

第2時:ヒストグラム(本時)

第6時:累積度数と累積相対度数

第3時:階級値を使った代表値の求め方

第7時:データを集めて活用しよう

第4時:データの分布と代表値

(3) 学習の系統

第6学年
代表値・度数分布・
ヒストグラム

第1学年
ヒストグラム・相対度数など

第2学年
四分位範囲・箱ひげ図

学びの見通しをもつ場面

○追究したくなるような課題の工夫

☑ 2つの度数分布表をもとに、本時の課題を生徒とともに設定する

導入で、地球の温暖化が進んでいるというニュースを提示し、本当にそうなのかを考えてみる。

20世紀後半の方が、気温が高い階級に度数が多く
なっているから、地球の温暖化が進んでいるのではないかな。

意見のずれ

度数が一番多くなっている範囲が、20世紀前半、
20世紀後半ともに9℃以上
10℃未満の階級だから、地球の温暖化は進んでいない
のではないかな。

表4 こうち市の3月の平均気温

階級(℃)	度数(回)	
	20世紀前半	20世紀後半
以上 未満		
6 ~ 7	2	0
7 ~ 8	3	2
8 ~ 9	14	2
9 ~ 10	16	17
10 ~ 11	8	14
11 ~ 12	6	12
12 ~ 13	1	3
合計	50	50

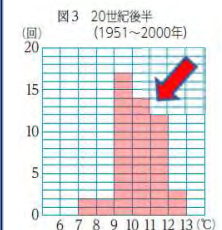
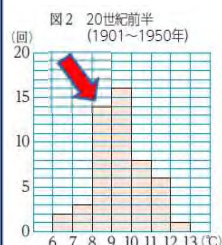
課題:どのような方法で、地球の温暖化を説明することができるだろうか。

ポイント 地球の温暖化が進んでいることを自分ごとにさせるために、身近なニュースを提示し、そこで出てきた相反する意見を取り上げ、クラス全体で考えたい本時の課題を設定する。

考えを広げ深める場面

○学び合いにより考えの自己調整を図る工夫

☑ 度数分布表とヒストグラムを関連付けて、地球の温暖化が進んでいることへの説明を考える



学習の調整

グラフの山が最も高くなっている階級は同じだよ。

でも、ヒストグラムの矢印に注目して...

まって!

〇〇さんは、グラフを使ってどんな説明をすると思う?

あ!前半は左側に山が寄っていて、後半は右側に山が寄っている。つまり、20世紀後半の方が、平均温度が高い年が多くなっているということかな?

グラフの一部ではなく、全体の傾向に目を向けることを理解

学び合いで変容を
自覚できる工夫

話し合った後、変わらなかった考え方は青で、参考になった考え方については赤で書き留め、振り返ることができるようにする。

ポイント 自らの考え方を他の生徒に説明させる等の学び合いを通して、自分では気付かなかった新たな考えをもとに、自らの考えを改善できるようにする。

学びを振り返り、次への学びにつなげる場面

○変容に気付き、学ぶ意義を感じられる工夫

☑ 振り返りをもとに、次への課題意識をもつ



今日の学習と日常生活との関連
ってありますか。

なるほど!温暖化が進んでいるってニュースで
いっていたことともつながるね。

私達が住んでいる町も温暖化が進んでいるか
調べてみたいな。



本時の学びを基に、日常生活とのつながりを感じ、自ら課題を見出した生徒



階級 (°C)	20世紀 前半	20世紀 後半
以上	未満	
4 ~ 5		
5 ~ 6		
6 ~ 7		
7 ~ 8		
8 ~ 9		
9 ~ 10		
10 ~ 11		
11 ~ 12		
12 ~ 13		
合計		

?



では、みなさんが住んでいる〇〇市の平均気温の度数分布表です。
地球温暖化が進んでいるといえますか?

【〇〇市の3月の平均気温】

階級 (°C)	21世紀 前半
以上	未満
4 ~ 5	0
5 ~ 6	0
6 ~ 7	1
7 ~ 8	4
8 ~ 9	8
9 ~ 10	4
10 ~ 11	3
11 ~ 12	1
12 ~ 13	0
合計	21

資料：気象庁ウェブページより



う〜ん・・・1つのデータだけでは不十分なん
じゃないかな?21世紀だけだと分からない気がする。

今日の勉強でも、20世紀前半後半があったので、このグ
ラフに足すと、全体の傾向が分かると思うよ。



ICT

タブレットを活用し、気
象庁のページからデー
タをダウンロードし、度数分
布表を作ってみましょう。



階級	20世紀前半	20世紀後半	21世紀前半
以上	未満		
4 ~ 5			
5 ~ 6			
6 ~ 7			
7 ~ 8			
8 ~ 9			
9 ~ 10			
10 ~ 11			
11 ~ 12			
12 ~ 13			
合計			

階級	20世紀前半	20世紀後半	21世紀前半
以上	未満		
4 ~ 5			
5 ~ 6			
6 ~ 7			
7 ~ 8			
8 ~ 9			
9 ~ 10			
10 ~ 11			
11 ~ 12			
12 ~ 13			
合計			

ポイント

振り返りの場面で、生徒自ら見出した日常における課題と地域のデータ等をつなげて考えさせることで、次の課題を追究する意欲を高めることができるようにする。

学習を家庭や地域とつなげる場面 〈数学科〉

☑ 数学で学んだデータの分析の方法や説明の仕方を利用して、地域のことを調べてみよう



数学で学習したデータの分析や、説明の仕方を使って、私たちが住んで
いる地域の温暖化について調べようと思います。

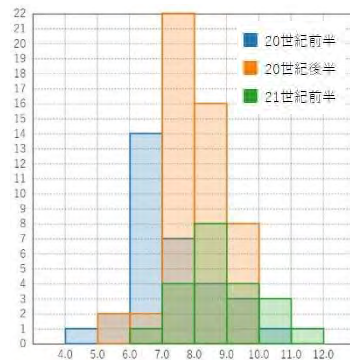
度数分布表を見ると、度数が一番多い階級がだんだん
高くなっているよ。ヒストグラムからも読み取れるし、地域
の温暖化も進んでいるのかも・・・。



それぞれの時代の度数の合計が違うよ。度数だけで、
温暖化が進んでいると言っているのかな?



合計が違うなら、割合にして比べてみたらどうだろうか?



【〇〇市の3月の平均気温】

階級 (°C)	20世紀 前半	20世紀 後半	21世紀 前半
以上	未満		
4 ~ 5	1	0	0
5 ~ 6	2	2	0
6 ~ 7	14	2	1
7 ~ 8	7	22	4
8 ~ 9	4	16	8
9 ~ 10	3	8	4
10 ~ 11	1	0	3
11 ~ 12	0	0	1
12 ~ 13	0	0	0
合計	32	50	21

資料：気象庁ウェブページより

ポイント

データの分析や、説明の仕方を自分の地域等と関連付けて活用することで、学習内容の定着を図るとともに、自分自身の地域を知り、進んで地域の課題について考えていこうとする意識を高めるようにする。

◀「学びに向かう力」を育むための学級づくりについて▶

「学びに向かう力」の育成には、日々の授業づくりや体制づくりとともに、学び合いながらともに高め合うための学級づくりが不可欠です。

■児童生徒にとっての学級とは・・・

児童生徒にとって学級は、学校生活のよりどころであり、心のよりどころです。学級は、児童の人間形成に大きな影響を与える場となるといえます。

学級経営について、小学校学習指導要領の総則（第4-1-(1)）には、「学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。」と示されています。

学級経営は、学級担任と児童生徒との相互作用を通して、学習や学校生活の基盤となる望ましい学級を築きあげていく実践活動です。

学習や学校生活の基盤＝学級づくり

思いに気づき、受け止める



認めてもらいたいな

みんなで楽しく勉強したいな

友達と仲良くなりたいな



■「学びに向かう力」を育むための学級づくりの3つのポイント

■誰もが受け入れられる支持的風土のある学級

児童生徒が失敗や間違いをしても、それを受け入れられる支持的風土があれば、授業中に分からないことがあったとしてもすぐに質問することができるなど、一人一人が安心して学べることができます。教育活動全体を通じて、互いを認め、尊重し合う取組を進めることが大切です。



■自治意識の高い学級

班活動、係活動、学校行事等を通して学級への帰属意識が高く、学級活動での話し合い活動で合意形成を図り、集団決定できている学級は、学習面においても、自分達でよりよい授業にしたいという意識が高い学級です。例えば、年度当初に決めた学級目標について定期的に話し合うなど、よりよい集団生活づくりに向けて、児童生徒が自治的に取り組む活動を意図的・計画的に実施することが大切です。

■規範意識の高い学級

集団生活や対人関係におけるルールの意義を児童生徒が理解し、自主的に守ろうとする学級づくりが大切です。

そのような学級では、学習の準備、挨拶、姿勢、発表の仕方や話の聞き方、話し合いの仕方などの学習規律も守られ、授業が効率的に進められます。



いくつ当てはまりますか？

☑「学びに向かう力」を育むための学級づくり

支持的風土のある学級

- ☐ お互いに認め合える関係がある
- ☐ 何でも言い合え、温かい言葉をかけ合えることできている
- ☐ 失敗しても、支えられ、やり遂げられる雰囲気がある

自治意識の高い学級

- ☐ 学級のことについて、自分で考えたり、判断したりできる場面がある
- ☐ 学級の話し合い活動で、課題を話し合い、みんなで解決できている

規範意識の高い学級

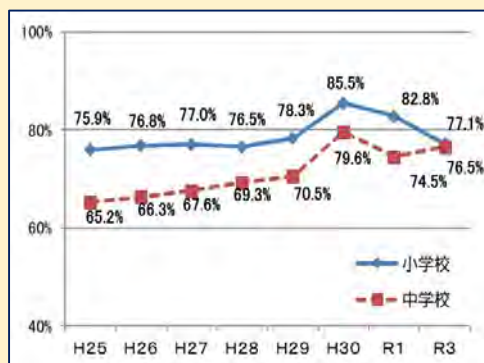
- ☐ 学習や生活する上で一定のルールが明確にあり、きっちりと守られている
- ☐ 一人一人が当番や係の仕事責任を持って取り組んでいる

学級担任だけで抱え込むのではなく、他の教員や保護者・専門職等と連携して学級の諸課題を解決し、よりよい学級づくりをしていくことが大切です。

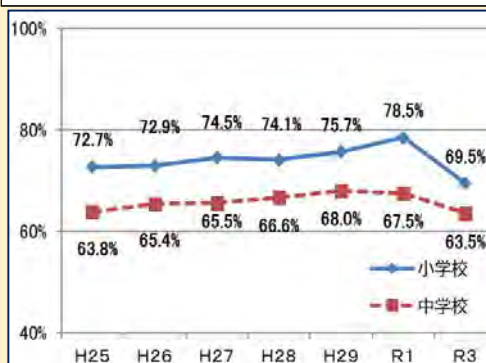
■自尊感情や挑戦心との関係は・・・

下の二つは、左項目（自尊感情）と右項目（挑戦心）についての経年変化のグラフです。どちらも一部を除いて、減少傾向にあることが分かります。

■自分には良いところがあると思うと回答した児童生徒の割合



■難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していると思うと回答した児童生徒の割合



「学級づくり」の3つのポイントでも示しているとおり、互いを認め合い、友達のがんばりを応援できる学級であればあるほど、自尊感情も高まり、目標に向かってチャレンジする心も育まれます。

加えて、教員が学級の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけて、評価をすることも大切な要素の一つです。

言語環境の整備について

「言葉は、自分の考えや思いを他者に分かりやすく伝えたり、相手の思いや考えを理解し尊重したりするなど、よりよい生活や人間関係を築く上で欠かせないものである。また、**言語能力は、全ての教科等における資質・能力の育成や学習規範となるものである**」と学習指導要領〈総則編〉でも示してあります。以下に、具体的な言語環境の整備事項を示しますので、ぜひ参考にして、授業改善や学級経営を行ってください。

- 教員は正しい言葉で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと
- 校内の掲示板やポスター、児童生徒に配布する印刷物において用語や文字を適正にしようすること 等

小学校及び中学校学習指導要領〈総則編〉



I 家庭や地域と連携した生活習慣や学習習慣の確立のために

第IV章では、児童生徒質問紙の分析を基に、生活習慣や学習習慣と「学力向上」との関連について触れていきます。

■家庭や地域との連携でのポイントは？

Q 「家庭や地域との連携」はしているけれど、どんなことに気を付ければいいの？

まず、家庭や地域とどんな子ども達を共に育てていきたいのか、つまり「**目指す児童生徒の姿**」を共有することから始めましょう！

A

「目指す児童生徒の姿」を明確にし、家庭や地域と共有しながら、連携を図るような取組を行うことが大切です。

振り返ってみましょう

こんな連携になっていませんか？

☒ 学習計画表等を渡すだけで、家庭任せにしている



家で計画して、取り組むようにしてください。

計画するだけで、どこが良くて悪かったのか分からない。



ポイント

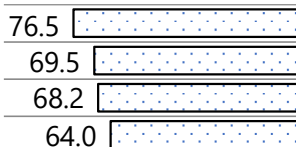
■大切なことは、同じ目標のもと、児童生徒の学習がどのように行われているのかを家庭と連携を図り、評価・指導していくことです。

学習習慣

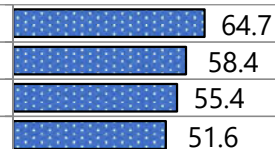
兵庫県データから見えたこと

【児童生徒質問紙】家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

小6
正答率
算数



よくしている
ときどきしている
あまりしていない
全くしていない



中3
正答率
数学

「家で自分で計画を立てて勉強していますか。」といった自ら学習に取り組もうとする項目では、肯定的に回答した児童生徒ほど、正答率が高くなっていることが分かります。

学力向上のためには、学校だけでなく、家庭においても自分で目的意識や課題意識を持ちながら、その目標を達成するために、試行錯誤をしながらも、粘り強く計画的に学習に取り組むといった「学びに向かう力」の育成が大切になってくることが分かります。

「毎日同じ時間に寝ていますか」についても、同様の傾向がみられました

【児童生徒質問紙】 毎日同じ時間に起きていますか

小6
正答率
算数

71.7

している・どちらかというとしている

59.3

62.8

あまりしていない・全くしていない

54.0

中3
正答率
数学

【児童生徒質問紙】 朝食を食べていますか

小6
正答率
国語

64.6

している・どちらかというとしている

65.3

52.3

あまりしていない・全くしていない

61.4

中3
正答率
国語

【児童生徒質問紙】 1日当たりのテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする時間が1時間以上であると回答した児童生徒の割合

小6
正答率
国語

72.3

1時間未満・していない

70.8

61.2

1時間以上

62.8

中3
正答率
国語

家庭での生活習慣と平均正答率との関係性を分析すると、同じ時間に寝起きしたり、朝食を食べたりするなど規則正しい生活を行ったり、ゲームの時間を決めて生活したりしている児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあると分かりました。

学力向上のためには、学校だけの取組にとどまらず、学校と家庭とが連携して、一人一人の児童生徒が望ましい生活習慣を身に付けられるよう組織的、継続的な取組を行うことが重要になることが分かります。

家庭や地域と連携した「タイムマネジメント力」育成のために・・・

生涯を通じて学ぶ楽しさを感じながら学習に取り組む児童生徒を育てていくためには、家庭生活に戻ったときでも、目標に向かってタイムマネジメントし、学習に取り組もうとする力が必要です。特に、一人一人の学習に対する思いを聞いたり、学級で話し合う場を設けたりしながら、その思いを家庭や地域との共有し、共に同じゴールに向けて育んでいきましょう。

【PDCA サイクルを通じた「タイムマネジメント力」の育成】

Plan：学習計画を立てる

連絡帳、学習計画表、テスト計画表等を活用し、目標や計画を立てるようにする。
※保護者欄も作成し、連携が取れるようにする。

Do：実践する

実践する中で「できた」ことだけでなく「できなかった」ことにも着目させて、記録等を取るように働きかける。

Check：自己評価をする

特に「できなかった」ことについて、その原因や理由を考える時間を設定する。
※保護者のコメント等も活用し、子どもと共に考えるようにする。

Action：改善策を考える

クラス全体のデータと比較させながら、改善点を考える。
※学級のグループで話し合ったりすることも効果的です。

I 小学校における取組

児童・家庭・学校が一体となって取り組む学習カード

「学習カードによる基本的な学習習慣を身に付けた子」の育成を目指して

学習カードの機能: ①学習習慣の定着 ②保護者の評価による連携

【記入内容】

- ・宿題の内容と評価
- ・音読ページ、漢字、計算、自学習の内容
- ・読書をした本の名前とページ数

・検温
・サイン

月末に児童の振り返りと保護者からの励ましを記入

この学習カードは、中学校でも継続して行っています。

家庭や地域との連携を小学校だけでなく中学校へもつなげることが大切です。



家庭学習を終えたら学習カードに記入することで学習習慣を身に付け、保護者からの音読の評価や月末の励ましにより学習意欲を高めていくことができます。また、自己の振り返りと保護者からの評価を教員が確認でき、指導や評価に生かすこともできます。

ポイント

学校図書ボランティアと連携した読書活動の推進

「子ども達の国語力(ことばの力)」の育成を目指して

<学習内容と関連付けた読み聞かせ>

図書ボランティアと連携して、教科書に関連する本を読み聞かせしてもらいます。

国語の学習に出てくる同一作者の本や同テーマの内容に触れることで、学習したこととつなげて感想をもったり、言語活動に生かしたりと、児童の学習が深まるようにしています。



保護者や地域の方に図書室の学習支援をしてもらうことで、授業中、休み時間を問わずにいつでも子ども達の学びが可能となり、教育活動の充実につながっています。



教科書との関連を図った読み聞かせ等を行う場合は、教員と読み聞かせボランティアとの入念な打ち合わせが必要不可欠です。どんな目的で、どのような本を探して読んで貰うかを単元計画に位置付け、連携を図ることが大切です。

ポイント

II 中学校における取組

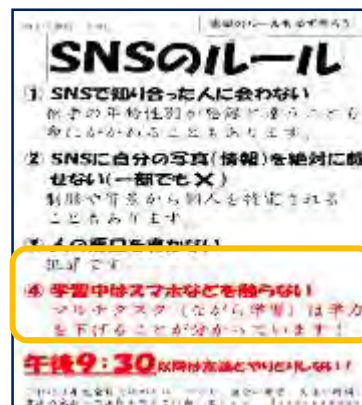
『学校・保護者・生徒』で考える携帯・スマホ（ゲーム）の使い方

「自己管理能力を高める生徒」を目指して

【分析】 個別懇談や、家庭訪問で保護者から相談されることの多くがスマホやゲームの利用についてである。実際に本校の3年生にアンケートを取ると平日スマホの使用時間の平均が2時間以上の生徒が全体の44%であり、家庭でのスマホ利用のルールがない生徒は全体の48%だった。

【指導の流れと家庭との連携】

- ① 生徒にスマホの利用と学力向上の関係についての話をし、自分たちのスマホ利用と学習について振り返る。
- ② 学年集会でスマホの使い方について生徒同士で話し合い、スマホのルールを作成する。
- ③ ルールを学年通信で知らせるだけでなく、個別懇談会で全ての保護者に手渡し、教員、生徒、保護者で携帯スマホの使い方を一緒に考える時間をとる。



スマホ使用に関する現状分析を基に、家庭と連携して自己管理能力を高めるために、どのような取組が必要かを学校全体で考えることが大切です。生徒自らルールを作成することで、自主的に守ることができるようになります。

自分自身で学習とスマホやゲーム等の時間を管理できるようになってきました。また、家庭学習時間の確保にもつながっています。



地域での取組と学校の学習を結び付ける

「学習したことを生かし、主体的に社会の課題を解決できる生徒」の育成を目指して

2030年の実現を目指されているSDGs(持続可能な開発目標)については、私達自身の生活とリンクさせて考える視点が大切です。自分たちの暮らす地域や、学校生活の課題をSDGsの視点で分析し、家庭・地域と協働して解決する取組です。

身近な環境に目を向けて、地域をフィールドワークする中で、ごみが多いことに気が付き、生徒達が「地域の環境を守るには、どうすればよいか」という課題を見出しました。その課題を解決するために話し合う中で、一つの方法として地域の清掃活動と協働したクリーンアップ作戦に取り組みました。

今後は、総合的な学習の時間で、各教科での学びを生かしながら、課題解決に向けた取組を地域へ発信することを計画しています。



地域の課題にも自ら目を向けて、学習したことを生かしながら解決しようとする意識が高まっています。



総合的な学習の時間において、各教科で身に付けた力を生かすにはどのような課題を設定するかを、地域の課題と結び付けながら設定することが大切です。

三木市における取組事例 【学校の学習と連携し、家庭学習習慣をつくるみっきいすてっぷ】

「みっきいすてっぷ」とは、チェックシート「学びの地図」やタブレット等を活用し、家庭と連携を図りながら、自ら学習を計画し、主体的に課題に取り組む力を育てる取組。【小1～中3での取組】

連携のポイント：「伸ばしたい3つの力の共有」「親子で一緒に取り組むこと」



学校便りやHP等で「みっきいすてっぷ」の周知・啓発を図り、家庭との連携に役立てています。

「みっきいすてっぷ」の構成

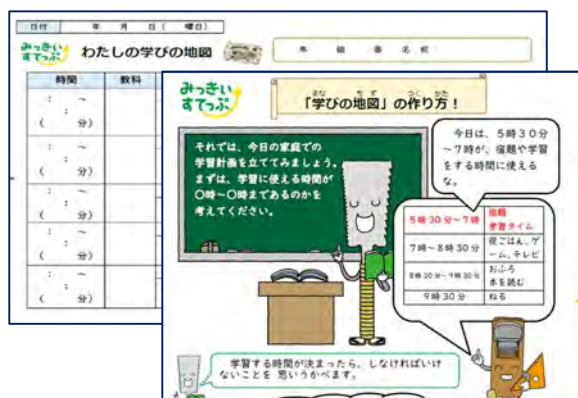
【冊子の構成】

- 1 「学びの地図」を作る意義
- 2 「学びのスタイル」の作るポイント及び「わたしの学びの地図」
- 3 タブレットドリルの学習方法とそのポイント
- 4 「学びの地図」の作り方

みっきいすてっぷで、伸ばしたい3つの力

- 1 学びたいことや自分の力に合った学習内容を自分で選ぶ力
- 2 毎日学習時間を決めて計画どおりやりぬく力
- 3 できるまでくり返しチャレンジする力

➤「学びの地図」で自分に合った家庭学習を！



計画・実施

振り返り

自分の能力や興味関心に合った学習方法を考えて、「学びのスタイル」を作り、実践することを目指します。

「学びの地図」の意義の説明や学びの地図の作り方や具体的なポイントが示されており、どの児童生徒もタイムマネジメントを意識しながら目標に向かって、計画を立て実施できるような内容になっています。

➤タブレットドリルで自分に合った学びを！



家庭学習においてもタブレットを活用し、自分にあった学び方や学習内容を見付け、主体的に学習に取り組むことを目指します。

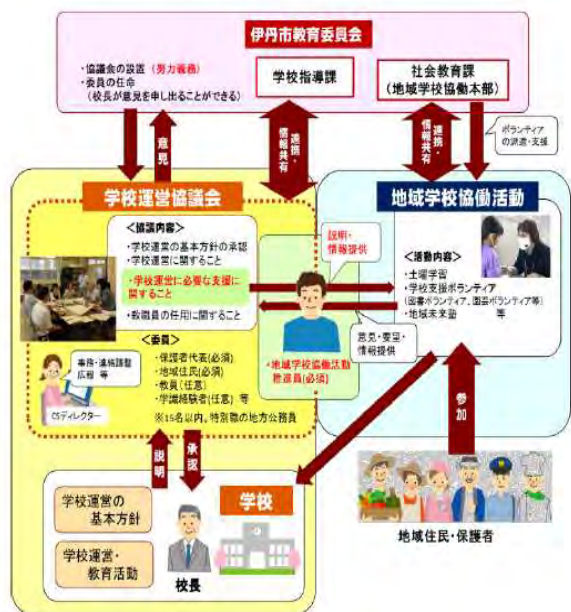
3段階のレベルでドリルがあり、自分の力に合わせて取り組むことができます。また、学習のログから苦手な分野が分かり、その課題に対する解説動画やプリントにもすぐに取り組むことができます。

家庭とともに「毎日学ぶ時間を決めて、計画通りやり抜く力」「自主的に学ぶ力」等の育成へ！

伊丹市における取組事例 【学校が地域とつながる コミュニティ・スクールの充実】

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。

伊丹市のコミュニティ・スクールの取組



伊丹市では、すべての学校に学校運営協議会を設置し、学校教育目標の実現、及び学校や子ども達の抱える課題改善に向けた協議を行っています。

➤協議された内容(一部抜粋)

- 学習に関すること(学習環境の充実、教育活動の支援 等)
- 学校生活や生活指導に関すること
(不登校生の学校復帰に向けて、生徒間トラブル、心のケア 等)

【具体的な取組内容例】

- 九九検定の補助による学力向上サポート
- 不登校生の復帰支援
- 実験や実習の補助(準備含む)

➤伊丹市立笹原小学校の事例 【学校・家庭・地域が連携した九九応援団の取組】



家庭及び笹ポーターチェック欄
入り九九カード



伊丹市立笹原小学校では、笹ポーター(地域のサポーター)が業間休み等に2年生の九九の聞き取りを行っています。九九のチェック表に、家庭でのチェック欄も作成し、学校・地域・家庭のつながりの中で、子ども達の学びを支えています。この取組を始めてから、子ども達はより意欲的に九九の練習をはじめとした家庭学習に取り組むようになってきました。

令和3年度学力向上実践推進委員会

●学識経験者	委員長	志水 宏吉	大阪大学大学院	教授	
	副委員長	吉川 芳則	大阪大学大学院	教授	
		佐藤 真	関西大学	教授	
		岡部 恭幸	神戸大学	教授	
●学校関係者		村尾 克彦	兵庫教育大学文化研究所	事務局長	
		松尾 弘子	姫路市立野里小学校	校長	
		植垣 文夫	姫路市立江井島中学校	校長	
●国語部会					
岡田 智子	加古川市立平岡南小学校	教諭	内田 英樹	西宮市立用海小学校	教諭
本家 由美	姫路市立高岡小学校	教諭	浅田 大輔	姫路市立花田小学校	教諭
池原 征紀	芦屋市立精道中学校	教諭	足立 宗之	丹波市立市島中学校	教諭
友定 美紀	小野市立旭丘中学校	教諭	太田 博文	洲本市立青雲中学校	主幹教諭
福田 裕子	県立教育研修所	指導主事	田中 賢司	県立教育研修所	指導主事
●算数・数学部会					

学びを支え高め合う「新はばタン・モデル」

学校全体で学力向上を推進するためには、きめ細かな学習指導と、人間的なふれあいに基づく生徒指導などの2つの観点での「学びのアクション」を両輪として、教職員の主体的・協働的な学校づくりへの参画などの「学びのビジョン」、校種間・地域の連携などの「学びのリレーション」を充実させることが大切です。

学びのビジョン

心通い合う学校経営

- 学校づくりへの教職員の主体的・協働的な参画
- 社会に開かれた教育課程の理念を実現するカリキュラム・マネジメントの確立

指導力を高め合う校内組織

- 学習や生活の基盤づくりに向け、指導力向上を図る研修の充実
- 教職員の高いモラルと相互に学び合う同僚性

安心して共に学び合う学校環境

- 認め合い・育ち合う活気に満ちた学年・学級経営
- 規律や伝統を重んじ、安心して学べる学校風土

学びのアクション (生徒指導)

人間的なふれあいに 基づく生徒指導

- 児童生徒理解を深化させ、集団生活における自己の存在感を高める取組
- 共感的な人間関係の育成や自己の可能性の開発の援助

豊かな体験を 通した心の教育

- 自立心、自己肯定感、成就感、規範意識等を育む体験活動
- 生命を大切にし、人権を尊重するなど豊かな心を培う取組

学びのアクション (学習指導)

学力や学習状況の把握に基づく きめ細かな学習指導

- 全ての学習の共通基盤とする資質・能力の計画的・体系的な育成
- 各教科の特質に応じた見方・考え方の育成

主体的・対話的で深い学びの 実現に向けた授業改善

- 既に行われている学習活動の質の向上
- 教える場面と思考・判断・表現させる場面を効果的に設計・関連させた指導

学びのリレーション

学びの連続性を踏まえた 校種間連携

- めざす幼児・児童・生徒像、指導観、指導方法等の共有
- キャリア教育の視点から学習への目的意識を持たせる系統的な指導

参画と協働による地域連携

- 教育課程を介した目標の共有
- 地域住民の支援・協力を得た開かれた学校づくり
- 地域人材・資源・教材を生かした教育活動

信頼関係に基づく保護者連携

- 保護者の教育目標や教育活動への理解とパートナーシップに基づく支援
- PTA等のネットワークを生かした教育活動